





平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立上尾高等学校 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	対象学年 : 全校生徒 1107名 クラス・人数: 1年368名・2年372名・3年367名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	東京2020大会において、開催都市提案による追加種目として実施される「野球」の魅力を伝えていただきプロスポーツの監督として、試合に臨む姿勢などを学び、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、監督との交流を通じて、将来について考える機会とする。
5 取組内容	(1)実施日 平成30年1月23日(水) (2)講師 埼玉西武ライオンズ監督 辻 発彦 氏 フリーアナウンサー 中川 充四郎 氏 (3)演 題 プロ野球監督から学ぶ「人生に無駄はない」 (4)内 容 辻監督と中川アナウンサーがトーク形式で辻監督の高校生時代から社会人野球そしてプロ野球選手への人生経過の話やプロ野球監督としての経験談など深い話を力説された。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>トークショー風景</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>質疑応答で生徒が質問</p>  </div> </div>

	<p style="text-align: center;">サインボールの抽選会</p>  
<p>6 主な成果</p>	<p>辻監督の自らの野球人生を通じて、野球の魅力や人生について熱く語っていただき、生徒も真剣に耳を傾け、メモを取る生徒もいた。中でも、「人間はどこでチャンスがあるかわからない。ただ自分は一生懸命生きてきたから、いい人に巡り合えたり手を差し伸べてくれた。その上ですべての行動に意思を持ってほしい。失敗しても過去と割り切り前向きに挑戦して欲しい。」という言葉に生徒も感銘を受けた。生徒も教職員も今後の人生に役立つ言葉をいただき、かなりの成果があった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校の校訓である「文武不岐」・「自主自律」の校訓のもと、生徒は勉強に部活動等を分け隔たりなく実践している。その中で、野球部は過去7回の甲子園出場やプロ野球選手も排出している。その中で、メジャースポーツであり、ご当地埼玉県唯一のプロ野球チームであり、昨年度リーグ優勝した、埼玉西武ライオンズの監督を招き、生徒の今後の人生に役立てられるよう工夫した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演時間に限りがあるため、質疑応答等の生徒と講師が交流する時間を充分にとることができなかった。 ・女子生徒の割合が多く野球界の情報があまりない生徒がいたので事前学習等で、野球についての「豆知識」等を行えば更なる効果があったと思われる。 ・事後指導として生徒に感想を書かせたり、授業等で取り上げたりしたが、もっと学校全体としての事後指導の取り組みを用意したほうがよかったと思う。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>次年度以降も、オリンピックやパラリンピアンによる講演やスポーツに関する著名人の講演会を実施していきたい。また本校生徒が車いすバスケットボールの日本代表選手であるので、生徒の意識高揚と応援を兼ねて、様々な取組を行いたい。</p>

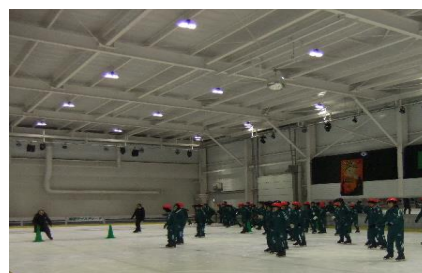
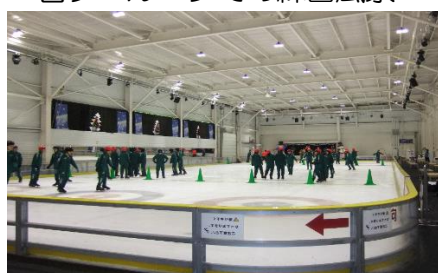
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立上尾高等学校 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	対象学年 : 商業科3学年 選択授業 クラス・人数: 7・8・9組・60人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツⅡ・アイススケート) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	専門家の指導を受けることで正しいスケートティングを身につけ、自己の課題に気づき、スケートの楽しさを感じることで生涯スポーツにつながる資質や能力を育てる。
5 取組内容	(1)実施日 平成30年10月29日(月) 11月 5日(月) 11月12日(月) 11月19日(月) 11月26日(月) 12月 3日(月) (2)場 所 埼玉アイスアリーナ(上尾市) (3)内 容 ①簡素なテストでグループ分けを行い、技量に合わせた段階的な指導を受ける。 ②氷上で立ったり、座ったりする導入から始まり、両足・片足・後ろ・スラローム・コーナリング等、難易度が上がる中で、指導者からのアドバイスを参考にしながら、生徒相互がお互いにコツを伝え合い、チェックし合いながら技術を身につけた。 各グループでの練習風景



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 冬季スポーツの代表であり、オリンピック等で日本選手が数多くのメダルを獲得している種目であるアイススケートを体験し、種目の特性を体得することができた。 • 初めてアイススケートを行う生徒が殆どであったが、1時間のレッスンで全員の生徒が滑れるようになった。 • 最後のレッスンでは、評価テストを実施した。生徒は非常に興味・関心を持ち一生懸命取り組んだ。 • 隣のリンクで小学生がレッスンを受けているのを見て刺激を受けていた。 • 今後、プライベート等でもアイススケートをやりたいという声が多く、生涯スポーツに繋がられた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 地域に根差した学校づくりの一環として地域の公共施設の有効利用と冬季スポーツの花形であるアイススケートを実際に体験する。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの回数を確保することが難しい。 • 公欠（進路活動）の1回の欠課が技能習得に影響が出やすい。
9来年度以降 の実施予定	今年度同様に10月下旬から12月に実施予定。

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


県立上尾高等学校 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	対象学年 : 商業科 : 3 学年 クラス・人数 : 7 組 42 名・8 組 41 名・9 組 41 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (地理) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	世界各国の文化やスポーツを調査し、プレゼンテーションとして発表することで、生徒たちが様々な「知識」を身に付けるだけでなく、お互いの「思考力・判断力・表現力」を伸ばす機会とすることがねらいである。また、調査活動・プレゼンテーションを通してその背景にある世界各国の風土や歴史を学び、スポーツの魅力発見や国際理解の深化を目指す。
5 取組内容	(1)各クラス6班(各班6~7名)に分かれ、話し合いで調査する国を決定する。 (2)それぞれの国の基本情報・民族・言語・宗教・文化・スポーツ等を調査し、プレゼンテーション資料としてまとめる。(主に図書館を利用) (3)各班(6か国)によるプレゼンテーション(5分間×6班)を実施(各教室) (4)各班のプレゼンテーションを4項目で評価 ※自分の所属する班を除く (5)授業者による内容等の補足を行う。



	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 座学ではなく調査・プレゼンテーションを自ら行うことで、生徒一人ひとりの知識の「定着」が促された。 • 生徒たちにとって身近な「スポーツ」を切り口のひとつとすることで、楽しみながら学ぶ様子が見受けられた。 • もともと持ち合わせていた世界各国のイメージが、調査・プレゼンテーションを行うことで変化したと話した生徒もあり、国際理解の深化を図ることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各クラス2回のプレゼンテーションを実施し、12か国(6か国×2)について学ぶことができた。 • 「スポーツ」とその国の風土や歴史との関わりを深く学ぶことができた。 • プレゼンテーション形式により、表現することの難しさや楽しさを学ぶことができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 一部の班はパワーポイントを利用したプレゼンテーションを実施したが、現状では校内におけるICT環境が充実しているとは言えないため、すべての班がそれらを使用したプレゼンテーションを行うことができなかった。 • 紙芝居や手作り資料を一生懸命に作成したり、演劇の要素を交えたりするなど、プレゼンテーションの工夫が多々見られたため、今後もパワーポイントに固執しないプレゼンテーションに取り組んでもらいたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本授業形式は、今年度がまだ2年目の取り組みであるため、来年度はさらに「改善」を加えた上で実施したい。</p>